

『百瀬家文書』における殺生小屋 と西岳小屋の設計図書について

THE ARCHITECTURAL DOCUMENTS FROM THE MOMOSE FAMILY'S ARCHIVES OF SESSHO-GOYA MOUNTAIN HUT AND NISHIDAKE- GOYA MOUNTAIN HUT

梅干野成央 — * 1

キーワード:

国立公園, 近代登山, 山小屋, 国立公園協会, 岸田日出刀

Keywords:

National park, Mountaineering, Mountain hut, National Parks Association of Japan, Hideto Kishida

Shigeo HOYANO — * 1

This report shows the architectural movements with the birth of the National Park Service Organic Act in Japan through the research of the architectural documents from the Momose family's archives of Sessho-Goya mountain hut and Nishidake-Goya mountain hut. These architectural documents were made by the National Parks Association of Japan in about 1936, and that designer was Hideto Kishida. As a conclusion of this study, these documents are the architectural archives discovered newly about the building design works of Hideto Kishida, and the project of the building design in the National Parks by the National Parks Association of Japan.

1. はじめに

槍ヶ岳や穂高連峰を擁する中部山岳国立公園は、日本を代表する近代登山の舞台である。とりわけ、中房温泉から槍ヶ岳へ至る北アルプス表銀座とよばれる登山道には卓越した自然の風景地を求めて登山者が集い、その沿道には数多くの山小屋^{注1)}が開設された。この登山道の出発点に位置する中房温泉は、長野県安曇野市の有明山の中腹、標高約1460mに位置する温泉旅館であり、明治時代の中頃から近代登山が普及すると、登山基地としても栄えた。そのため、中房温泉の経営者は、登山道の整備や山小屋の開設など、近代登山のための事業を積極的に進め、現在もこの登山道の沿道で槍ヶ岳殺生ヒュッテとヒュッテ西岳を経営している^{注2)}。

槍ヶ岳殺生ヒュッテは、大正11年(1922)に開設された山小屋である。昭和34年(1959)に現在の建物へと建て替えられるまで、殺生小屋と呼ばれていた^{注3)}。一方、ヒュッテ西岳は、大正14年(1925)に開設された山小屋である。昭和40年(1965)に現在の建物へと建て替えられるまで、西岳小屋と呼ばれていた^{注4)}。平成22年(2010)より、中房温泉の経営者である百瀬孝仁氏が所蔵する『百瀬家文書』^{注5)}の調査を進めている。この調査を進めるなかで、槍ヶ岳殺生ヒュッテとヒュッテ西岳の旧称(殺生小屋と西岳小屋)が標記された設計図書(以下、当史料)を発見した。当史料の多くには「中部山岳国立公園」と標記されており、また、その一部には昭和11年(1936)の作成年が記されていた。当史料が作成された時代、それは、昭和6年(1931)に国立公園法が施行され、昭和9年(1934)に中部山岳地域が国立公園に指定された時代と重なる。

昭和6年(1931)に国立公園法が施行された後、これを契機として、どのような建築活動が展開したのであろうか。現在の国立公園では、昭和32年(1957)に国立公園法の後継法として施行された自然公園

法のもと、建築物に基準が設けられ、自然の風景地の保護と利用が図られている^{注6)}。したがって、国立公園法が施行された後には、この基準の源流に位置づけられるような建築活動が展開した過程を推測できる。

これまで、国立公園法の施行を契機とした建築活動に関する研究は、市浦健の設計による日光龍頭山の家に関するもの^{注7)}のほか、建築史の分野において蓄積がなく、これに対して当史料は新たな知見を与えると考えられる。そこで本報告では、当史料を整理し、文献などからこれらの作成経緯を把握する。この作業をふまえ、国立公園法の施行を契機とした建築活動の一端を明らかにし、当史料の建築史的意義を述べる。

2. 当史料の整理

当史料は、『百瀬家文書』における槍ヶ岳殺生ヒュッテとヒュッテ西岳の旧称(殺生小屋と西岳小屋)が標記された設計図書である(一覧:表1、仕様書:図1、図面:図2)。当史料を整理した結果、殺生小屋の仕様書1種類(史料S1)と図面6種類(史料S2~S7)、西岳小屋の仕様書1種類(史料N1)と図面4種類(史料N2~N5)を確認した。図面(史料S2~S7・N2~N5)には、青図と白図があり、白図には、青図と同じ内容でも文字や線の表現が異なるものを確認した。これらについては、文字や線の表現が整理されていることから、複写図面として扱った。

2-1. 内容

殺生小屋の仕様書(史料S1)と図面(史料S2~S7)は、内容が対応しているため、殺生小屋に関する一組の設計図書であると考えられる。同様に、西岳小屋の仕様書(史料N1)と図面(史料N2~N5)も、内容が対応しているため、西岳小屋に関する一組の設計図

本稿は参考文献1)を増補・改訂したものである。

¹⁾ 信州大学工学部建築学科 助教・博士(工学)
(〒380-8553 長野県長野市若里4-17-1)

¹⁾ Assistant Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Shinshu Univ., Dr. Eng.

書であると考えられる。仕様書（史料 S1・N1）には「新築設計説明書」と標記されているが、位置の項目に「現在ノ小屋敷キ」と記されていることから、当史料が作成された時点において、既存建物の存在がうかがえる。したがって、当史料は、建て替え計画に関するものであると考えられる。また、当史料の内容は、現在の建物と対応していないため、前身建物に関する計画か、あるいは、未完の計画であると考えられる。

当史料の内容をみると、殺生小屋は二階建てであり、西岳小屋は平屋建てである。造りは、共に木造であり、屋根は切り妻形式で亜鉛鉄板葺き、壁は下見板張りで周りを石積みで囲っている。間取りは、共に山小屋らしく、宿泊室や食堂、厨房などからなる。意匠は、共に素朴で、和洋の様式が折衷している。殺生小屋は石の素材（石積み）を基調としており、一方、西岳小屋は木の素材（下見板）を基調としている。こうした意匠の差異は、殺生小屋と西岳小屋が立地する自然の風景地との調和を考慮した結果であると考えられる。実際、殺生小屋は森林限界を超えたガレ場に立地しており、周囲の地表を岩石が覆う。一方、西岳小屋は森林限界付近に立地しており、周囲の地表を高山植物が覆う。

表 1 当史料（一覧）

No.	標題	作成年月	種類	縮尺	寸法 横・縦	仕様
S1	殺生小屋新築設計説明書	-	仕様書	-	182・257mm	内務省衛生局の用紙 4 頁
S2	中部山岳国立公園 殺生小屋改築設計図 正面 [図面 No. 1]	昭和 11 年 9 月	図面 立面図 [正面]	1/100	550・370mm	青図・白図 (複写図面)
S3	中部山岳国立公園 殺生小屋改築設計図 一階平面 [図面 No. 2]	昭和 11 年 9 月	図面 平面図 [一階]	1/100	545・375mm	青図・白図 (複写図面)
S4	中部山岳国立公園 殺生小屋改築設計図 二階平面 [図面 No. 3]	-	図面 平面図 [二階]	1/100	545・373mm	青図・白図 (複写図面)
S5	殺生小屋詳細図 ([図面 No. 4] か)	-	図面 断面詳細図	1/20	374・520mm	青図・白図 (複写図面)
S6	中部山岳国立公園 殺生小屋改築設計図 東立面・い-ろ断面 [図面 No. 5]	-	図面 立面図 [東] 断面図 [い-ろ]	1/100	375・540mm	青図・白図 (複写図面)
S7	中部山岳国立公園 殺生小屋改築設計図 配置図 [図面 No. 6]	-	図面 配置図	1/100	534・380mm	青図・白図 (複写図面)
N1	西岳小屋新築設計説明書	-	仕様書	-	182・257mm	内務省衛生局の用紙 4 頁
N2	西嶽小屋設計図 平面図 [図面 No. 1]	-	図面 平面図	1/50	536・392mm	青図
N3	西嶽小屋設計図 側面及断面図 [図面 No. 2]	-	図面 立面図 [側面] 断面図 [い-ろ]	1/50	534・392mm	青図
N4	西嶽小屋設計図 正面図 [図面 No. 3]	-	図面 立面図 [正面]	1/50	538・376mm	青図
N5	中部山岳国立公園 西嶽小屋新築設計図 (透視図)	-	図面 透視図	-	762・530mm	白図 (読みとり困難)

殺生小屋新築設計説明書		西岳小屋新築設計説明書	
国立公園協会		国立公園協会	
位置	現在ノ小屋敷キ別紙配置図ニヨル	位置	現在ノ小屋敷キ
建坪	一階 八拾二坪八合 二階 五拾四坪四合 計 百三十七坪二合 (岸田氏設計ヨリ百坪少)	建坪	三十三坪七合五勺
收容数	二百九十人 (一人當リ巾一尺五寸長七尺七寸トシテ)		二段式寢臺 (宿泊室) 十二坪
基礎	附近ヨリ産スル石材ヲ用ヒ土臺掘付ケポルト締メ建物前テレース便所廊下石敷キトス		ホール兼食堂七・五坪
壁	外壁大壁造リ外部石積みノ部分胴縁木摺打防水紙貼リノ上附近ヨリ産スル良質ノ石材練積シ石積上部及妻一號ルーフィング敷キ下見板張リ (又ハ敷目板敷キ脊板張リ) トス	收容数	一人當リ巾一尺五寸長七尺〇寸トシテ五十六人
床	内壁ハ腰堅羽目板張リ少壁アンペラ張リトス 食堂兼ホール、炊事場、床丸太小口張リ (丸太ニ限ラズ小口丸太張リ目地モルタル流シ込ミ) 便所及此ニ通ズル廊下ハ石張リ他ハ全テ木造板張リトス宿泊室ウスベリ敷キトス	基礎	附近ヨリ産スル石材ヲ用ヒ土臺掘ケポーチ亂石積トス
天井	宿泊室天井板打上ゲホール兼食堂天井特ニ設ケズ根太ニアンペラ敷キトシ天井ニ代ヘル。ホール兼食堂ノ柱ハ丸太トス	壁	外壁大壁造リ野地胴縁打一號ルーフィング張リノ土合缺キ横板打ち小壁及妻、堅羽目板張リ内部全テ堅羽目板張リ
小屋	和小屋樺一尺五寸間渡シ屋根勾配四寸五分又ハ五寸野地板一號ルーフィング敷キ屋根板ハ平ニ張ラズ下見板様ニ貼リ此ノ形ナリニ亜鉛引平鐵板葺キ雪止メ設計圖ノ如ク設ク	床	ポーチハ石張リ食堂兼ホール丸太小口張リ (特ニ丸太ニ限ラズ) 宿泊室廊下椽用板張リ寢臺藁布團又ハウスベリ敷キ炊事場ハ一部土間 (又ハ石敷キ) 他ハ木造板張リ賣店木造床
窓出入口建具	建具櫃ハ普通ヨリ稍太メノモノヲ用ヒ引違戸、開戸トナシ窓石積ノ□ハ鐵筋コンクリートトス 鐵筋コンクリート設計仕様	天井	食堂兼ホール天井板打上ゲ宿泊室此ニ準ズ他ハ天井ヲ設ケズ
注意	被覆二種版厚十五種十二耗鐵筋八種間隔ニ配ス 玄關出入口アーチハ止ムヲ得ザル時ハ軸部鐵筋コンクリート石張リトス 二段式寢臺ノ部分ハ通路トノ間ニ褐色カーテンヲケル北側山寄り切取リノ部分ハ防水ニ十分注意ノコト。樞間面戸板ノ施工ハ十分ニ注意シ風雪ノ侵入ヲ考慮ノコト	小屋	小屋梁ハ松丸太樺一尺五寸間渡シ屋根勾配三寸五分野地板一號ルーフィング敷キ亜鉛鍍手鉄板葺キ瓦棒一尺五寸巾ニ設ク
	S1	建具	出入口窓共建具太メノモノ引違トナシ出入口ハ三尺扉引違トス 二段式寢臺ノ部分窓ハ上下ニ分チ各引違硝子障子トナス
		其ノ他	便所ハ小屋ノ東方別ニ建築スルモノトス テレース、石張リ、腰掛ケ造付ケ
		注意	北及西切取ノ部分ハ石積シ防水紙敷キトナシ小屋内濕氣ヲ避ケル建物ノ出陽ハ設計圖ニ從フコト 宿泊室通路トノ間仕切りハ褐色カーテンヲ設ク 樞間面戸板ノ施工ハ十分ニ注意シ風雪ノ侵入ヲ考慮ノコト
			N1

図 1 当史料（仕様書）

2-2. 作成年

殺生小屋の立面図 [正面] (史料 S2) と平面図 [一階] (史料 S3) には、作成年として「昭十一・九。」と記されている。したがって、殺生小屋の設計図書は、昭和 11 年 (1936) 頃に作成されたと考えられる。殺生小屋の設計図書と西岳小屋の設計図書を見比べると、表現が酷似していることから、西岳小屋の設計図書もまた、殺生小屋の設計図書と同時期 (昭和 11 年 (1936) 頃) に作成されたと考えられる。

2-3. 作成者

仕様書 (史料 S1・N1) には、作成者として「国立公園協会」と記されている。したがって、当史料を作成したのは、国立公園協会であると考えられる。『百瀬家文書』には、国立公園協会から当時の中房温泉の経営者である百瀬彦一郎 (1889-1943) に宛てた封筒も含まれていた。この封筒には「設計図面在中」と記されていることから、当史料はこの封筒を用いて届けられたと考えられる。また、仕様書 (史料 S1・N1) の用紙には、当時、国立公園を担当していた内務省衛生局のものが用いられているが、これは、国立公園協会の事務局が内務省衛生局のなかに設置され、国立公園に関する事業を協力して行っていたことなど、時代背景をよく示している^{注8)}。

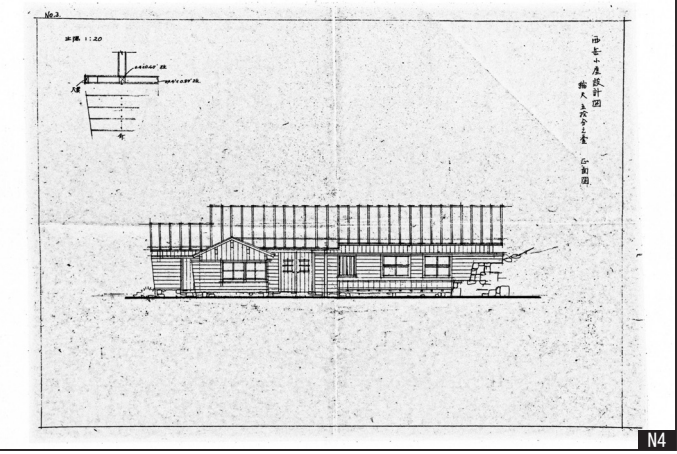
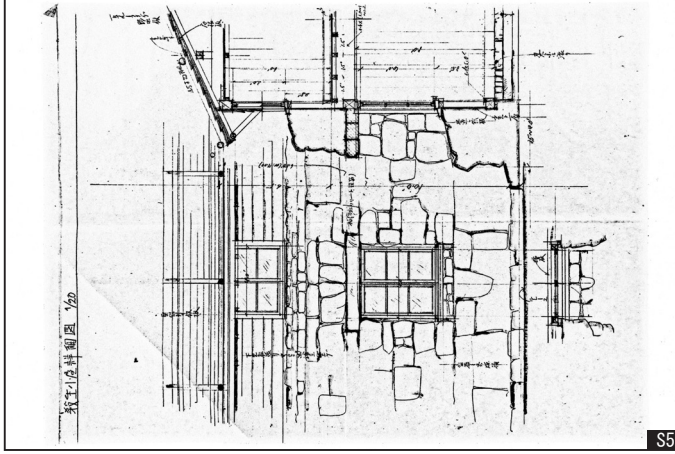
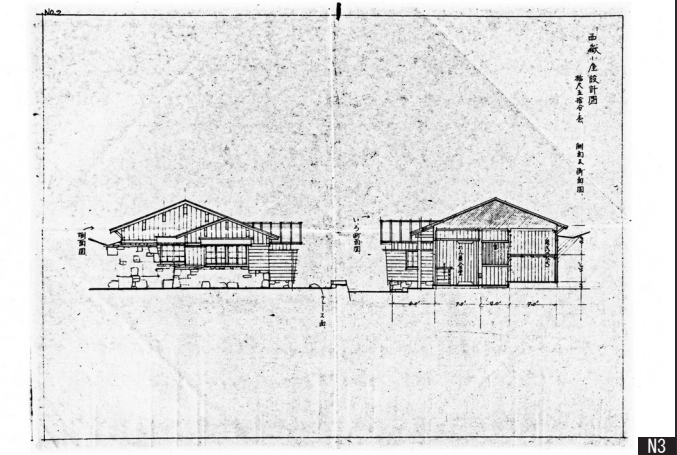
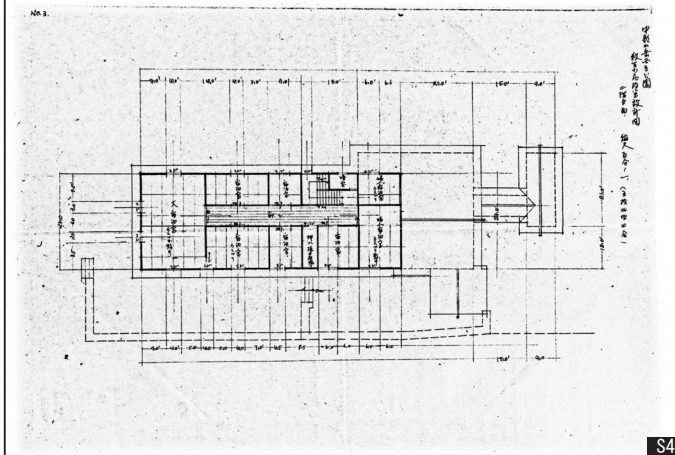
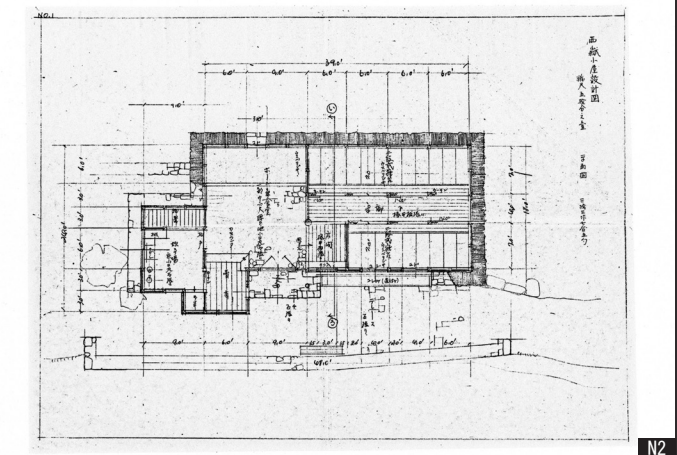
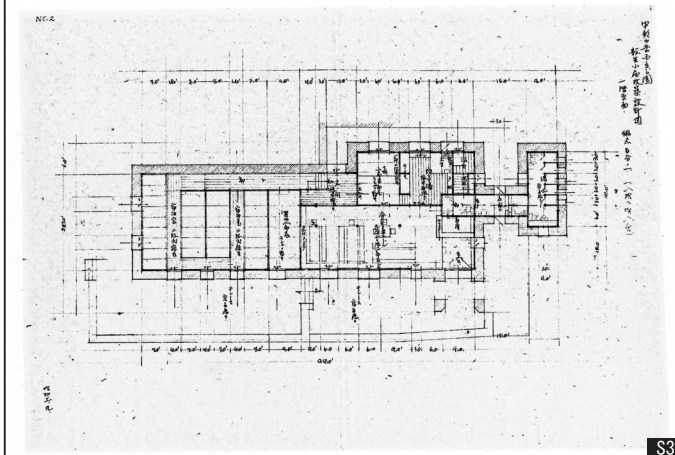
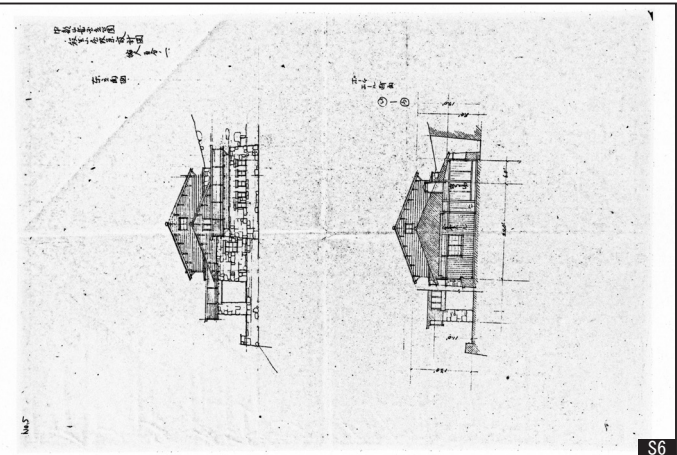
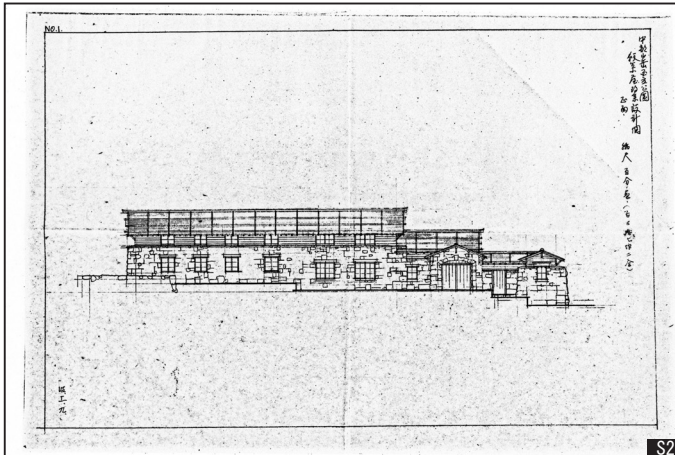


図2 当史料（図面） ※青図の地と図を反転させた。

3. 当史料の作成経緯

殺生小屋の仕様書（史料 S1）の建坪の項目には、「計 百三十七坪二合（岸田氏設計ヨリ百坪少）」と記されている。これによれば、殺生小屋の設計図書は規模縮小をともなう変更案であり、変更が加えられる前の設計案が「岸田氏」によって計画された過程を推測できる。では、殺生小屋の設計案が「岸田氏」によって計画された過程を含め、当史料は、どのような経緯のなかで国立公園協会によって作成されたのであろうか。

国立公園協会は、日本に国立公園を誕生させるため、昭和4年(1929)に発足した機関である。昭和6年(1931)に国立公園法が施行された後も、国立公園に関する調査研究などを行ってきた。国立公園協会では、昭和4年(1929)に発足してから昭和19年(1944)までの期間と昭和23年(1948)から平成24年(2012)に解散するまでの期間の二期にわたって、機関誌『国立公園』を発行してきた(昭和18・19年(1943・1944)は『國土と健民』に改題)。当史料の作成年(昭和11年(1936)頃)を含む、昭和4年(1929)から昭和19年(1944)までの期間に発行された『国立公園』の記事を総覧した結果^{注9)}、殺生小屋と西岳小屋に関する4件の記事(表2:記事1~4)を発見した。

殺生小屋と西岳小屋が最初に登場するのは、記事2「国立公園協会：協会雑報—国立公園内建築物の設計は本協会へ」(昭和10年(1935))^{注10)}である。この記事には、国立公園協会が国立公園内にたつ建築物の設計事業(以下、当事業)を実施したことが記されており、すでに申し込みのあった事例として、瀬戸内海国立公園の下津井小濱

喫茶寮と土ノ庄すみや観海樓、日光国立公園の手白澤山荘とともに、中部山岳国立公園の殺生小屋と西岳小屋が記されている。また、この記事には、当事業の担当者として「東京帝國大學教授工學博士岸田日出刀氏」と記されていることから、殺生小屋の設計案を計画した「岸田氏」が、岸田日出刀(1899-1966)であると見当がつく。

殺生小屋の設計案が当事業のなかで岸田によって計画されたことは、記事3「岸田日出刀：槍嶽殺生小屋の設計に就て」(昭和10年(1935))^{注11)}からも明らかである。この記事には、岸田によって殺生小屋の設計概要が記されており、これとともに、透視図、平面図[一階・二階]、立面図[西南・東南・西北]、断面図[いーろ・はーに]が掲載されている(図3)。これらの図面は、当史料とよく似ている。また、設計概要の文末には「西嶽小屋も大體殺生小屋に似た設計とした。ただその規模が小さいだけである。」と記されていることから、西岳小屋の設計案もまた、当事業のなかで岸田によって計画されたと考えられる。

この後、殺生小屋の設計案は、規模縮小をともなう変更が加えられた。記事4「福田乙二：殺生小屋の計畫に就て」(昭和12年(1937))^{注12)}には「敷地が色々の點で思ふ様にとれないのとその他種々の事情に妨げられて中々建設にまで運ばない爲に、先の岸田博士御計畫案の規模の縮小一部の變更を餘儀なくされた。」と変更案の設計概要が記されており、これとともに、透視図、平面図[一階・二階]、立面図[正面・東]、断面図[いーろ]が掲載されている。このうち、平面図[一階・二階]と立面図[正面・東]と断面図[いーろ]は、

表2 当史料の作成経緯に関する『国立公園』の記事

年	記事 No. [巻(号), 頁]
昭和6年(1931)	…… 国立公園法の施行 ……
昭和9年(1934)	記事1 国立公園協会：協会雑報—岸田博士囑託、工作物の設計指導 [6 (12), pp. 3-6] 【内容(引用)】雲仙、霧島、瀬戸内海の三箇所は既に国立公園として指定せられ、他の箇所に就ても所定の手續の完了を俟ちて近く夫々指定を見んとするに至つたが、之と相前後して国立公園内に於てホテル、山小屋、道路、橋梁等各種工作物の築造、計畫乃至之が實施をみるものも尠くない。而して国立公園内に於て工作物の新築、改築又は増築をなす場合には、国立公園法の規定に依り夫々届出(行政廳の場合は通知、尚指定の前後を問はず、風致上重要關係ある施設に就ては通牒の示す所に依り當該地方長官より協議)を要することになつてある。之は畢竟国立公園は自然の大風景地を原始そのまゝの姿に於て永遠に保存し、之に必要な開發を施こして、國民の享用に供せんとするものであるから、其の風致の維持を始め保護利用上遺憾なきを期せんがための用意に外ならないと存ずる。從て其の需むるところは、国立公園内に於ける各種工作物は周圍の自然的風致との調和を始め、構造設備之に伴ふ材料等も国立公園の施設として特異の設計考案に出づることを希ふことと考へる。然るに從來届出又は協議ありたる此等工作物の例につき仄聞するに叙上の看點に照し用意を缺くものが尠くなく、不本意ながら設計全部に亘りて改築を要求せられた場合も一、二に止らないとのことである。斯の如きは届出義務者に對しても誠に氣の毒のことである。當協会はかかる情勢に鑑み、国立公園内に於ける工作物の設計に當り、届出又は通知義務者にして希望ある向に對しては豫め夫々適切な指導助言をなし、又は設計の依頼に應じ、国立公園の施設として風致上は固より、建築學上より萬全を致したいといふ趣旨よりして、今回新たに建築界の權威、東京帝國大學教授工學博士岸田日出刀氏を囑し快諾を得たので、當協会の一事業として爾今、如上の斡旋に當ることになつたから、此の旨茲に御報告旁謹告すると共に御利用を切望する。之に要する手数料等に就ては其の都度御相談のことに御含み乞ふ。
昭和10年(1935)	記事2 国立公園協会：雑報—国立公園内建築物の設計は本協会へ [7 (3), p. 28] 【内容(引用)】本協会は国立公園内に於ける各種建築物の新築改築増築等に當り 適切な指導助言をなし 又は設計の依頼に應じ 風致上建築學上萬全を期する爲め その御相談に應じます 御利用を願ひます (規定は當協会宛照會下さい) 東京帝國大學教授工學博士 岸田日出刀氏擔當 国立公園協会 因みに、舊職本協会に於ける右事業發表と共に直ちに、左記設計依頼の申込みあり、好評を博して居ります。 中部山岳 槍ヶ岳 殺生小屋(山小屋) 西岳小屋(山小屋) 瀬戸内海 下津井小濱喫茶寮(休憩舎) 土ノ庄すみや観海樓(旅館) 日光 手白澤山荘(温泉付山小屋)
	記事3 岸田日出刀：槍嶽殺生小屋の設計に就て [7 (8), pp. 14-18] 【内容(概略)】殺生小屋の設計案が記載されている。岸田日出刀によって設計概要が記されており、これとともに、透視図、平面図[一階・二階]、立面図[西南・東南・西北]、断面図[いーろ・はーに]が掲載されている(図3)。また、文末には、西岳小屋の設計も殺生小屋と似た設計としたことが記されている。
昭和11年(1936)頃	…… 当史料の作成 ……
昭和12年(1937)	記事4 福田乙二：殺生小屋の計畫に就て [9 (1), pp. 14-16] 【内容(概略)】殺生小屋の変更案(規模縮小と一部変更)が記載されている。福田乙二によって変更案の設計概要が記されており、これとともに、透視図、平面図[一階・二階]と立面図[正面・東]、断面図[いーろ]が掲載されている。

当史料と合致する。こうした殺生小屋の変更案は、この記事の筆者である福田乙二（生没年不詳）によって計画されたと考えられる。福田は、昭和9年（1934）に内務省衛生局へ入庁し、国立公園を担当した人物である^{注13)}。当時の国立公園協会と内務省衛生局のつながりをふまえると、内務省衛生局の職員である福田が当事業を補助し、殺生小屋の変更案を計画した過程を読みとることができる。

これ以降、当史料にもとづいて、殺生小屋と西岳小屋の建て替えが行われた事実を確認できない。したがって、殺生小屋と西岳小屋の建て替え計画は、未完に終わったと考えられる。その理由は定かでない。

一方、記事1「国立公園協会：協会雑報—岸田博士囑託、工作物の設計指導」（昭和9年（1934）^{注14)}）には、当事業の出発点が記されている。この記事には、国立公園法の施行が「自然の大風景地を原始そのまゝの姿に於て永遠に保存し、之に必要な開発を施こして、國民の享用に供せんとするものであるから、其の風致の維持を始め保護利用上遺憾なきを期せんがための用意」であり、「国立公園内に於ける各種工作物は周囲の自然的風致との調和を始め、構造設備之に伴ふ材料等も国立公園の施設として特異の設計考案に出づることを希ふ」ために、当事業が実施されたことが記されている。国立公園法が施行された当時、国立公園法に内在する自然の風景地の保護と利用という相反する方向性について、議論がおこっていた^{注15)}。当事業は、この議論に対する一つの解答として、自然の風景地に調和する建築が実質的に模索された取り組みであったといえる。さらに

いえば、当事業の実施以前に同様な取り組みを確認できないことから、当事業を、国立公園法の施行を契機とした、自然の風景地に調和する建築が実質的に模索された最初の取り組み、として位置づけることができる。

さかのぼれば、当事業の担当者を務めた岸田は、昭和9年（1934）に国立公園協会と建築学会の共催で行われた設計競技「国立公園内に建つ山小屋建築設計圖案懸賞」^{注16)}で審査員を務め、審査員を代表して審査評^{注17)}を記すなど、設計競技の中心的な役割を果たしていた。岸田が設計競技で審査員を務めた事実と当事業の担当者を務めた事実とを連続的にみると、当事業との前後関係のなかで設計競技が行われた過程を読みとることができる。こうした過程は、岸田にとって、自然の風景地に調和する建築を探索する重要な時間であったといえる。当史料と設計競技の入賞作品には多くの共通点を確認できることから、岸田が設計競技の入賞作品を参考にしながら設計案を計画した様子を推測できる。

4. まとめ：当史料の建築史的意義

以上、本報告では、『百瀬家文書』の調査において発見した殺生小屋と西岳小屋の設計図書を整理し、文献などからこれらの作成経緯を把握した。

殺生小屋と西岳小屋の設計図書は、殺生小屋の仕様書1種類（史料S1）と図面6種類（史料S2～S7）、西岳小屋の仕様書1種類（史料N1）と図面4種類（史料N2～N5）からなる。当史料は、殺生小屋と西岳小屋における未完の建て替え計画に関するものであり、国立公園協会によって実施された国立公園内にたつ建築物の設計事業のなかで、昭和11年（1936）頃に作成された。当事業は、昭和6年（1931）に施行された国立公園法に内在する自然の風景地の保護と利用という相反する方向性への解答として、自然の風景地に調和する建築が実質的に模索された最初の取り組みであり、昭和9年（1934）から岸田日出刀を担当者として実施された。

当事業では、中部山岳国立公園の殺生小屋と西岳小屋のほか、瀬戸内海国立公園の下津井小濱喫茶寮と土ノ庄すみや観海樓、日光国立公園の手白澤山荘についても、設計案が計画されたと推測できる。とはいえ、これらのなかで設計案が紹介されているのは殺生小屋と西岳小屋だけであり、当事業の代表例として殺生小屋と西岳小屋の設計案が計画された過程を読みとることができる。殺生小屋と西岳小屋の設計案については、記事2と記事3に設計概要と図面の一部が記載されているだけであることから、当史料は、これらを補足する新出の建築史料であるといえる（表3）。とくに、西岳小屋の設計案については、記事2と記事3に殆ど記載されておらず、当史料によって、初めて具体像を知ることができる。

また、岸田の設計案にもとづく当史料を、岸田による自然の風景地に調和する建築の探索に対する一つの解答、として位置づけることもできる。とはいえ、殺生小屋と西岳小屋の設計案は、岸田の設計業績として知られていないことから^{注18)}、当史料は、岸田の未分析な設計活動を示す新出の建築史料であるといえる。岸田は、当事業の担当に先立って国立公園協会と建築学会の共催で行われた設計競技「国立公園内に建つ山小屋建築設計圖案懸賞」の審査員を務めており、設計競技から当事業までの間には、岸田が自然の風景地に調和する建築を探索した道筋が表れていると考えられる。

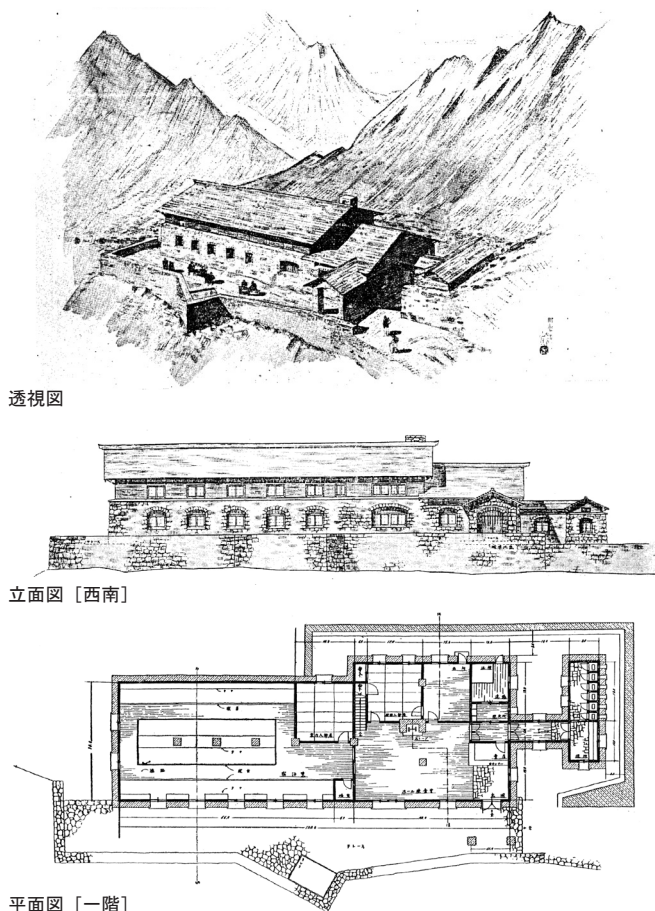


図3 岸田日出刀による殺生小屋の設計案
※出典 岸田日出刀：槍嶽殺生小屋の設計に就て（参考文献12）

表3 当史料と『国立公園』の記事3・4に掲載されている図面との対応関係

		殺生小屋の設計図書							西岳小屋の設計図書							
昭和10年 (1935)	記事3 岸田日出刀：槍嶽殺生小屋の設計に就て [7][8], pp.14-18 に掲載されている図面	立面図 [西南]	平面図 [一階]	平面図 [二階]	立面図 [東南]	断面図 [い-ろ]	透視図									
昭和12年 (1937)	記事4 福田乙二：殺生小屋の計畫に就て [9](1), pp.14-16 に掲載されている図面	立面図 [正面]	平面図 [一階]	平面図 [二階]	立面図 [東]	断面図 [い-ろ]	透視図									
							?									
	当史料	S1 仕様書	S2 立面図 [正面]	S3 平面図 [一階]	S4 平面図 [二階]	S5 断面 詳細図	S6 立面図 [東]	S7 断面図 [い-ろ]	未発見	配置図	N1 仕様書	N2 平面図	N3 立面図 [側面]	N4 断面図 [い-ろ]	N5 立面図 [正面]	透視図

謝辞

本報告をまとめるにあたり、中房温泉の百瀬孝仁氏に多大なご協力をいただきました。ここに記して謝意を表します。なお、本報告は科学研究費「国立公園法の施行を契機とした山岳建築の意匠論とその展開過程に関する研究(若手研究(B)25820309)」の成果の一部である。

注

- 山小屋の語義について、参考文献2) p.2838には「登山者の休憩・宿泊または避難に当てるために登山道沿いや山頂近くに建てた小屋」とある。本報告における山小屋の語義はこれに準ずる。
- 山小屋の建設過程については、参考文献3)・4)にまとめている。
- 槍ヶ岳殺生ヒュッテについて、平成22年(2010)に建物調査を行った。この建物調査の成果については、参考文献5)にまとめている。
- ヒュッテ西岳について、平成22年(2010)に建物調査を行った。この建物調査の成果については、参考文献6)にまとめている。
- 『百瀬家文書』の目録は、参考文献7) pp.119-131にまとめられている。当史料は、目録の作成時に未整理であったためか、目録から欠落している。
- 参考文献8)を参照した。
- 参考文献9)では、岸田による殺生小屋の設計案に触れているものの、当事業を扱っていない。
- 参考文献10) p.15を参照した。
- 『国立公園』の記事の総覧にあたっては、不二出版から復刊された復刻版『国立公園』(全12巻+別冊1)を用いた。
- 参考文献11)を参照した。
- 参考文献12)を参照した。
- 参考文献13)を参照した。
- 福田の経歴については、著書(参考文献14)に「昭和9年 東京帝国大学工学部建築学科卒業 内務省衛生局国立公園係、株式会社日立製作所日立工場営繕課、同栃木工場建設課長を歴任(中略)昭和31年 鹿島建設技術研究所次長 現在に至る」とある。
- 参考文献15)を参照した。
- 参考文献16)を参照した。
- 設計競技「国立公園内に建つ山小屋建築設計圖案懸賞」については、優秀作品集(参考文献17)が発行されている。岸田は、設計競技「国立公園内に建つ山小屋建築設計圖案懸賞」の審査員を務める以前、昭和8年(1933)に建築学会によって行われた設計競技「国立公園に建つホテル」の審査員も務めており(参考文献18)参照)、「国立公園内に建つ山小屋建築設計圖案懸賞」と「国立公園に建つホテル」の間に前後関連を推測できる。
- 参考文献19)を参照した。
- 岸田の設計業績については、主に、参考文献20) pp.29-41に掲載されている年譜を参照した。岸田は、殺生小屋と西岳小屋のほか、国立公園協会と関係して、昭和10年(1935)に大雪山愛山溪ホテルの設計案も計画している(参考文献21)参照)。大雪山愛山溪ホテルの設計案もまた、当事業との関連を推測できる。

参考文献

- 梅干野成央・土本俊和：百瀬家文書中の槍ヶ岳殺生ヒュッテとヒュッテ西岳に関する昭和初期の建築史料，日本建築学会大会学術講演梗概集，建築歴史・意匠，pp.17-18，2012.9
- 新村出編：広辞苑一第6版，岩波書店，2008
- 梅干野成央・土本俊和・小森裕介：近代登山の普及における山小屋の建設過程—ウォルター・ウェストンの槍ヶ岳山行経路付近に開設された山小屋を事例として，日本建築学会計画系論文集，第76巻・第659号，pp.211-220，2011.1
- 梅干野成央・堀田真理子・土本俊和：中房温泉の経営者による戦前期の山小屋建設とその立地計画，日本建築学会計画系論文集，第77巻・第681号，pp.2643-2650，2012.11
- 堀田真理子・梅干野成央・土本俊和：槍ヶ岳殺生ヒュッテに関する建物調査報告，日本建築学会北陸支部研究報告集，第54号，pp.523-526，2011.7
- 田村啓・梅干野成央・土本俊和：ヒュッテ西岳に関する建物調査報告，日本建築学会北陸支部研究報告集，第54号，pp.527-530，2011.7
- 中房温泉天然記念物保存管理計画策定委員会編：天然記念物 中房温泉の膠状珪酸および珪華保存管理計画，長野県安曇野市教育委員会，2011
- 環境省自然環境局国立公園課監：三訂 自然公園実務必携，中央法規出版株式会社，2011
- 速水清孝：市浦健設計「日光龍頭山の家」に見るアントニン・レーモンドの影響，日本建築学会計画系論文集，第74巻・第639号，pp.1183-1189，2009.5
- 油井正昭：国立公園誕生と発展に努力した国立公園協会の活動，国立公園，第649号，pp.14-17，2006.12
- 国立公園協会：雑報—国立公園内建築物の設計は本協会へ，国立公園，第7巻・第3号，p.28，1935.3
- 岸田日出刀：槍嶽殺生小屋の設計に就て，国立公園，第7巻・第8号，pp.14-18，1935.8
- 福田乙二：殺生小屋の計畫に就て，国立公園，第9巻・第1号，pp.14-16，1937.1
- 福田乙二：放射線しゃへい壁の施工，鹿島建設技術研究所出版部，1963
- 国立公園協会：協会雑報—岸田博士囑託、工作物の設計指導，国立公園，第6巻第12号，pp.3-6，1934.12
- 白幡洋三郎：雑誌『国立公園』の歴史的意義と日本の国立公園の価値、『国立公園』解題・総目次・索引(復刻版『国立公園』別冊1)，pp.5-17，不二出版，2011.12
- 高杉造酒太郎編：国立公園ニ建つ山小屋建築設計圖案集，国立公園協会・建築學會，1934
- 岸田日出刀：第七回建築展覧會第二部懸賞「国立公園に建つホテル」設計應募案審査評，国立公園，第6巻・第2号，pp.14-15，1934.2
- 岸田日出刀：應募圖案審査の感想，国立公園，第6巻・第3号，pp.3-6，1934.3
- 「岸田日出刀」編集委員会編：岸田日出刀 上巻，相模書房，1972
- 岸田日出刀：大雪山愛山溪ホテルの設計，国立公園，第7巻・第11号，pp.12-16，1935.11

[2014年2月17日原稿受理 2014年4月15日採用決定]